

福マネット

<発行日>
平成26年5月1日

第8号

「福マネット」とは“福島のケアマネジャーのネットワークを深めていこう!”という思いが込められています。

巻頭言



一般社団法人 福島県介護支援専門員協会 会長

千葉喜弘

あの震災から3年が経ち、本当に福島は甦っているのでしょうか。いまだ仮設での生活を強いられ、除染も進まず、帰宅困難地域がある限り、私たちは支援を続けることが大切です。住宅のかり（仮・借）はあっても人生の仮はないという言葉思い出しました。福島の再生と復興が問われている今日、介護分野ではどのようなことが起こっているのでしょうか。平成26年度は、地域における医療・介護の総合的な確保を図るための改革が行われます。今回の医療・介護の改革は、プログラム法の規定に基づき、高度急性期から在宅医療・介護までの一連のサービスを地域において総合的に確保することで地域における適切な医療・介護サービスの提供体制を実現し、患者の早期の社会復帰を進め、住み慣れた地域での継続的な生活（福島はこの事すら実現できない）を可能とすることと目的が示されています。

実際の中身では、

- ①在宅医療・介護連携の推進などの地域支援事業(介護保険財源で市町村が取り組む事業)の充実とあわせ、全国一律の予防給付(訪問介護・通所介護)を地域支援事業に移行し多様化。

- ②特別養護老人ホームの「新規」入所者を、原則、要介護3以上に重点化(要介護1・2でも一定の場合には入所可能)。
- ③低所得者の保険料軽減を拡充。
- ④一定以上の所得のある利用者の自己負担を2割へ引上げ(ただし月額上限あり)。
- ⑤低所得の施設利用者の食費・居住費を補填する「補足給付」の要件に資産などを追加等となっています。

介護保険制度の改革の殆どは、適正サービスの提供のためと言いつつ、財源困窮を理由としたサービス提供の切り詰めです。本来の介護保険制度の理念がどこかへ隠れてしまった感があります。しかし、介護や支援を必要とする利用者側にとっては生活の改革などありません。これまで通りの生活を維持していただくだけです。当たり前の生活ができるために、私たち介護支援専門員は関わっていきます。被災者支援も、要支援・要介護者支援もソーシャルワークの視点が必要ということが実感できたと感じています。

今ある現状をどのように捉え、適正なアセスメントを行ない、ちょっと先の生活の姿を見通して目標を立て、ご本人と共に納得した選択肢を考え実行していく。本人の意欲を引き出すことを焦点として、生活支援マネジメントを行なうことなんです。

本協会の活動も、何らかの支援を必要とする生活者へ社会福祉的援助関係を形成し、利用者から感謝されるような介護支援専門員を育てられるよう研鑽して参ります。そして、利用者との関係の中で専門職としての適切なサービス調整が展開され、そのことで本人の自立や潜在的パワーを引き出すことができるよう努めてまいります。

目次

巻頭言	1
福マネットリレー“結”	2
福島県広域災害福祉支援ネットワーク協議会が創設されました	2
キャリア形成支援事業のご案内	3
受験対策講座と模擬試験実施報告	4
会員会費の口座引落について	4

ハイライト

- ◆新コーナー 福マネットリレー “結”
- ◆福島県広域災害福祉支援ネットワーク協議会の創設
- ◆キャリア形成支援事業
- ◆介護支援専門員受験対策講座

◎ キャリア形成支援事業のご案内 ◎

居宅介護支援事業所や各介護事業所の職員のキャリアアップや資質向上を目的に、当協会から研修の講師を派遣しています。以前は福島県の受託事業として実施してまいりました。福島県の事業から外れたものの、皆様から事業継続のご希望が多かったため、福島県介護支援専門員協会の単独事業として事業を行いました。

平成25年度は33事業所へ講師を派遣し、全1,363名の方が研修に参加されました。参加頂いた方々からは、「講義が分かりやすく、自分に置き換えて考えることができた」「来年もお願いしたい！」など好評を得ることができました。

平成25年度キャリア形成支援事業実績報告

参加者の声 ～アンケートより抜粋～

研修テーマ	回数	参加者の声
福祉心理学を学ぶ	4	興味をひきつけられ、時間があっという間だった。
メンタルケアとヘルスケア	3	日頃ストレスを多く感じているので自分でできる「リラックスできる呼吸法」はとても参考になりよかったです。今日から寝る前に実践していきます。
よりよいコミュニケーションを目指して	5	身近な事例をもとに日ごろの自分を振り返りながら学びを深めることができました。
実践スーパービジョン	3	スーパービジョンとは何かを学び、それぞれの現場や立場で実践できるよう、今後の仕事に役立てていきたいと思えます。
終末期（緩和）ケアの概念と基本的な考え方	6	終末期医療、看取り介護の手法のみならず、地域包括ケアにおけるエンドオブライフケアの意義として総合的に学ぶことができました。
サービス担当者会議、あなたはどうか参加していますか？	1	具体的事例を交えて説明があり、とてもわかりやすく、新人職員から経験年数の多い職員まで共通理解が得られました。
認知症高齢者の実践的アプローチ	2	逆転の発想などのやわらかい考えの必要性等を改めて認識させていただきました。
介護事故とリスクマネジメント	2	施設が目指すべき姿、あるべき姿をお聞きし、身が引き締まる思いです。
認知症高齢者の共感的理解	1	入居者に対する接し方を振り返るいい機会になった。
介護老人保健施設版ケアマネジメントシステムR4を学ぶ	2	老健施設の本来あるべき姿である在宅復帰が、より円滑に推進できることを懇切丁寧に解説いただき、職員の資質向上を図ることができました。
地域包括ケアにおけるエンドオブライフケアの意義	1	今後も研修の機会をつくり、多数の人に勉強してもらいたいと考えています。
「ケアマネージャーのアセスメント」自立支援を目指して	1	このような研修を繰り返すことの大切さを感じた。
介護職員の自分の身体を守るケア	1	自分の身体の維持に大切な「自分でできるケア」を学ばせていただきました。早速布団の上でゴロゴロと体操をしてみました。
介護支援専門員の仕事を楽しくやりがいのあるものに	1	参加者がそれぞれの立場で、改めて具体的に自らの仕事を振り返るよい機会をいただきました。

当協会では、全20テーマをご用意しております。講師派遣をご希望される場合は、テーマの中からひとつ選択し、当協会までお申し込みください。申込み書やカリキュラム詳細は、福島県介護支援専門員協会ホームページの「研修」のページからダウンロードできます。



平成25年度介護支援専門員受験対策講座と模擬試験実施報告

現役介護支援専門員が丁寧に指導

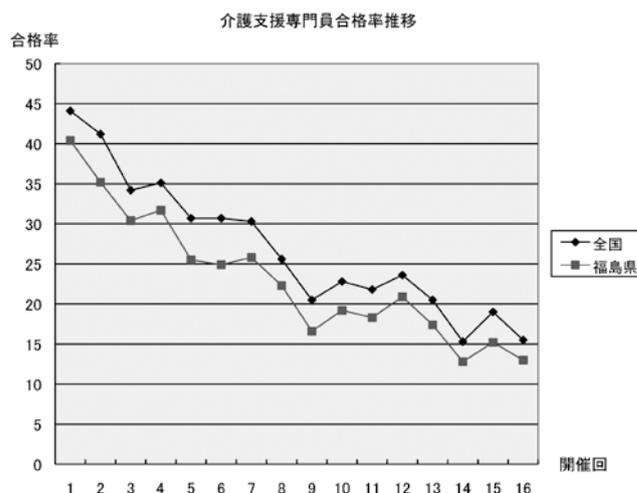
平成25年9月7日、郡山市の郡山医療介護病院にて県内各地から45名の受講者を迎え、「介護支援専門員受験対策講座と模擬試験」を実施しました。受験対策講座では当協会理事の藤江眞明氏、竹田匡志氏による科目毎のポイントの解説があり、実際に合格された方からも「ポイントを絞って勉強することが出来て良かった」との嬉しい感想もいただいております。

平成25年10月13日に行われました、第16回介護支援専門員実務研修受講試験では全国で2万2324名（合格率15.5%）、県内では340名（合格率13.0%）の介護支援専門員が誕生しましたが、これは過去2番目に悪い数字でした。ここ数年の合格率の推移を見ても介護支援専門員が難関資格になりつつあることが分かります。（グラフ参照）

合格率が低調な原因としては定期的な介護保険の改訂があり、問題の傾向が予測しづらいこと等もあるかもしれませんが、複雑、巧妙化しつつある試験問題に

対して普段基本職種の仕

事をこなしながら受験の準備をされる受験者の負担が大きいこともあるのでは無いでしょうか？独学での合格は難しくなりつつあります。平成26年度も現役介護支援専門員が教える、「受験対策講座と模擬試験」を企画しておりますので是非ともご活用いただけますよう資格取得を目指す方々への周知をお願いいたします。



会員会費の口座引落についてのお知らせ

口座引落の手続きがお済みでない会員の皆様は、地方銀行・農協等で「F-NET用口座引落申込書」の用紙を入手し、必要事項を記入の上、所属する地域協議会事務局へ提出してください。

口座登録の不備については、「印相違」「印の不鮮明」「名義不一致」のほか、「婚姻等により口座名義人の苗字が不一致」「フリガナの姓と名の間を1マス空けていない」「1マスの中にカナと濁点（゛）を記入」「漢字の表記違い（斎藤⇔齊藤、渡邊⇔渡辺など）」等があります。口座内容と同様にご記入ください。

会員が所属する事業所等で会費を負担する場合は、各地域協議会事務局への納入となります。各事務局へお問い合わせください。

発行：一般社団法人 福島県介護支援専門員協会
 会長：千葉喜弘
 事務局：郡山市亀田二丁目19番地14号 チャレンジビル2階

TEL 024-924-7200 FAX024-924-7202 <http://www.fcma.jp>

広報グループ：藤江 眞明 仁井田 義弘 貝沼 勝敏 伊東 靖裕 国分 達弥
 鹿山 奈美 丹内 美樹男 野内三香子